熱（ねっと）人

NPO JSN vol.11 広報誌

ＪＳＮ理事長 田川精二のＪＳＮ航海日誌 … 02

突撃！所長金塚 株式会社良品計画 … 03

現場の声　後編 … 06

ひと 株式会社奥進システム　奥脇　学さん … 10

企業応援団のご紹介 静華苑　山田 健一郎さん 高倉 百合子さん … 12

わが町の熱い人紹介 中元　華奈さん … 13

就職者の声 … 14

ＪＳＮメンタルヘルス相談室 … 15

太田裕子のゆるＭＩＸ … 16

ＮＰＯ法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク

ひと

有限会社奥進システム 代表
奥脇 学さん

このたび、【JSN】の監事に就任された奥脇氏は、「すえひろ会」幹事としても【JSN】の良き相談役。システム開発会社を運営する中で、障害者のサポートや社会活動に力を入れておられます。企業人としてノーマライゼーションを自然体で実践する姿に、【JSN】スタッフからの人望も厚く、お茶目なキャラクターで常に周囲を笑顔にしてくれます。
現在、会社では6名中4名が障害者。バリアフリーなどの設備を導入し、働きやすい環境作りを工夫されています。

IT社会ならできる！「多様な働き方」に挑戦

—【JSN】発足当時から実習生を受け入れて下さり、昨年の本誌にもご登場頂いた奥脇社長。いつも本当にお世話になっています。

ちょっと興味のあることは、とことんやってみないと気がすまない性格なんです（笑）。障害者雇用についても、曖昧な制度などが多いでしょう。働いているスタッフのことを考えたら、一人の人生がかかっているわけですから、他人事ではすまされません。「一体どうなっているんだ!?」と福祉のことを掘り下げていたら、こうなりました。

—システム開発という仕事柄、掘り下げたくなってしまう？（笑）

その通り！小さい頃から物づくりが大好きで、時計などを分解しては組み立て、遊んでいました。コンピューターの仕組みに興味を持ち、工業高校の電気科で学んでからはエンジニア職一筋。今年で24年になります。

—障害者雇用に興味を持たれたきっかけは？

15年近く大手企業で働いていたのですが、家庭を持つ主婦の方や障害を持つ方が、優秀な能力を持っているにも関わらず、社会で活躍できないケースを数多く見てきました。当時はインターネットが普及していませんでしたし、どうしても会社という場所に拘束されてしまい、仕方がありませんでした。しかし、今はパソコンも小さくなり、IT技術の進歩もあり、自宅などでパソコンを利用してビジネスをすることが可能な時代。たとえば東京と大阪で離れていても、一つのプロジェクトを遂行することができます。「これやったら、皆がもっと幸せになれる。独立したら、どこでもシステム開発をできる会社を作ろう」と思ったのがきっかけです。

—たしかに、インターネット社会が確立されてから、多様な働き方が可能になりました。

そこに挑戦したかったんです。在宅で

仕事ができるというのは、一種の「就業革命」。まずはネットワーク作りから始めようと、SOHOなどの団体や職業訓練施設を回り、可能性を探っていました。大阪市職業リハビリセンターから実習の依頼を受けたのも、ちょうどその頃でした。

自然な形で共に働くため バリアフリー化を実現

—その時出会った福井さんは、現在入社4年目。重要なポストも任され、活躍しておられます。

ええ、会社になくてはならない存在です。しかし、実習を受け入れた当時は、会社も余裕がなく、危機的状況ですらありました。

—それでも受け入れを決めたのは？

彼の熱意です。「家で引きこもっていては何も生まれない。社会とつながっていたい」という熱い気持ちを持ち、実習でも実力を発揮してくれました。福井さんを採用してから1年後、彼のリハビリセンターの後輩である小西さんも共に働くようになりました。二人とも電動車いすでの移動が基本となる1級の障害者ですから、徐々に事務所をバリアフリー環境へと改装していきました。

—スロープの設置や、吊り下げ式の引き戸の導入など、さまざまな工夫をしておられます。

車いすに合う机に買い替え、パソコンのマウスを手の甲を使って操作できるタイプの「トラックボールマウス」に変えました。一緒に働く時間が増えたことでコミュニケーションの和が深まり、社内に助け合いの自然な風土が生まれました。

—採用に際して、ポイントにしておられることはありますか？

特に中小企業においては、即戦力を求めるのではなく「仕事をしながら教える」ことも企業の役割だと考えています。【JSN】さんからしても、「エンジニアとして即戦力になる人を訓練する」なんて、とうてい無理な話でしょう。採用の際は、社会人としての自覚があるかどうかが一番のポイントです。できないことを「できます」と言われてしまうと、サポートのしようがないんです。だからまず、嘘をつかない、挨拶をきっちりする。報告・連絡・相談ができる。それさえできていれば、多少作業効率が悪くても、フォローすることができます。

障害者雇用を通して 新たな縁が広がる

—企業の立場から見て、【JSN】に望むことはありますか？

一般的に、施設の方などには「もう少し企業の立場に立って、利益と作業効率、体調管理と自己確立のバランスを頭に入れてほしい」とお願いすることが多いんですよ。しかし、【JSN】のスタッフさんは、本当によくやってくれていると思います。スタッフ全員がモチベーションを高く持ち、本当に利用者さんのためになる支援を工夫しておられます。

—ありがとうございます。

精神障害者の方の能力は、システム開発の分野においても生かされる機会が多いにあります。しかし、人間関係や職場環境などが原因で、仕事を続けられなくなった方も多いのではないでしょうか。うちは普通のシステム開発会社からしたら、常識外の会社です。障害を持ちつつも技術職を続けたいという、エンジニアの方の気持ちは、痛いほど理解できます。能力を生かせる場になれば幸いです。

—障害者雇用のビジョンや、モットーはありますか？

よく聞かれるんですが、縁があった人がたまたま障害者だっただけで、大きなビジョンを描いているわけではないんですよ。実習で受け入れた方の仕事ぶりを見て、「この人やったら働けるな」と思い、「働いてみる？」という自然な流れ。障害者雇用が特別なことではなく、すべての人がお互いを理解するという、自然な形で進んでいけばと考えています。障害者雇用をしていく中で、【JSN】さんのような組織や支援団体、さまざまな会社との新たな縁も広がってきました。とても喜ばしいことです！

奥脇 学
【JSN】監事
有限会社奥進システム 代表